

◎ジャンボリー (JAMBOREE)

ボーイスカウトの野営大会でひとつまたは地域的・国際的・世界的な規模で開かれるもの。

◎ジャンボレット (JAMBORETTE)

ジャンボリーより小さな規模のもので、国または地域的・国際的なスカウトの野営。フィリア、コロボリーも同じ意味。



◎キャンポリー (CAMPREE)

地区あるいは県連・地方の規模で開かれるスカウトの野営大会。カブの大会は通常ラリーと称している。

◎アーンナリー (AGOONOREE)

国あるいは数か国の障害スカウトが集まって開く行事。単にアーンということもある。

(例) 48年8月第1回日本アーンナリー。於愛知県。



巻頭言

ボーイスカウト、ガールスカウト静岡県大会（西部会場）の市中パレート

そなえよ つねに

冬になると動物の中のある種類のものは、穴居して冬ごもりをする。

植物の大部分は落葉して、まるで生氣を失ってしまったように見える。

まるで、生物のエネルギーが一見して低下したかのように見られるのであるが、本当はその逆なのである。

冬こそ、エネルギーが一番旺盛であり、次の活動のために、力が蓄えられつつある時なのである。

人間の場合、この時期に暦が更新される。即ち、旧年の年を送り、新らしい年を迎えるのだ。

そして、人々は、希望に満ちた新らしい年への活動のために、新らしいエネルギーを作り、そして蓄えるのだ。新陳代謝のために。

そうした意味から、冬を迎えるに当って、「そなえよつねに」という標語を今一度、かみしめてみたい。

「そなえよつねに」とは、「いざ鎌倉」という、非常にそなえるためにだけに、この標語があるのではない。

スカウティングは、スカウト活動は、春や夏だけのものではない。夏に仕上げる為に、秋から冬の間に十分な準備が行なわれなければならないのだ。

心にも、身体にも、備品や用具にも十分に配慮がなされてこそ、初めて春や夏の活発な活動が行なわれるのである。

冬はもう目の前だ。冬になって、スカウト活動が劣化させなければならない。夏に備えての冬の活動をより活発にするように心掛けたいものである。（内田嘉一）



《紹介》

浜松地区野営行事委員長

竹村徳一氏

間髪を入れず飛びだす洒落を混じえた話術と奇知に富んだ才能は何をやらしても抜群の手腕を發揮し、地区野営行事委員長として打って付けの人物であります。御当人は地区一番のおっちょこちょいと自負しておりますが、その活躍は地区行事ですでに御承知の通りでございます。竹村さんは昭和4年8月24日入野町に生まれ、浜松商業高校卒業後、趣味として体得された弱電技術を生かされ、生來の器用さも幸いしてか、見る見る内に現在の竹村デンキ店を築城されました。また先天的な音楽的才能は作曲に演奏に、私達リーダーのよき先生として、スカウティングに奉仕されております。竹村さんは昭和44年8月、團發足（浜松20團）と共に團委員長として團の育成発展のため努力され、又前野営行事委員長・滝口さんのなきあと、昭和47年8月より地区野営行事委員長として積極的な奉仕は申し上げるまでもありません。この間、指導者講習会その他の研修にも率先参加、團内の團委員の範となっております。これからも益々地区のため、又我々20團のためにもなくてはならない人となってくれる事と確信しております。

昭和48年度浜松地区

合同野営 朝霧高原にて挙行

野営行事委員長 竹村徳一

8月2日、どんより曇った浜松を後に朝霧に向かう。途中、牧之原サービスエリアにて集結。車を東に走らせば今にも泣きだしそうな空模様である。

朝霧野外活動センターの駐車場に車を入れ、下りたとたんにセンターの職員からお目玉を頂戴した。

「荷物運搬車が通行禁止の標識を無視してサイトへ入って行ったからすぐにもどして下さい」そのうえ

「着いたら着いたで団体名と人数をすぐに事務所まで報告してくれなければ困りますよ」

「ハイ、わたしも今着いたばかりですので……」

「とにかく大きなトラックをすぐもどして下さい」

「ハイ、わかりました」

これが今年の合同野営のオープニングである。

参加団体10団。中央ブロック3、西部ブロック2、南部ブロック5、参加人員二百数十名が朝霧高原に集う3泊4日の合同野営が開幕した。私は今回の合同野営はいろいろ多くの事を学んだ野営はなかった。その内の大きな事3つを記してみたい。

まず第一に富士登山である。300名のスカウト関係者が大挙して日本一の富士山へ登ったなどという事は、恐らく浜松地区始まって以来の事ではないかと思う。わたしは朝霧へ残ったので登山中の事はわからないが、下から眺めても富士は雲にかくれてその姿を見せない。雲が低い時は上の方は晴れているだろうと思いつつ、みんなの帰りを待っていた。

4時頃になれば全員元気に帰つて来るものと神ならぬ身の知るよしもなく、ボツ

ボッタ食の仕度でもしようかと思った時御殿場に居た20団のリーダーから第一報が入った。

「まだ一人も下山して来ない」とのこと。ばかにおいなあ、何か事故でも起きたのではないか。こんな事を思いつつ夕食の準備をしていた。

その頃から遠くで鳴っていた雷が近づいて来た。そして、ボツリ、ボツリ、火山灰の地面をたたく音が早くなつて來た。稻光りと同時に頭の上で雷鳴がとろき暗くなりかけた朝霧の森を、一瞬真昼の明るさにする。不吉な予感が頭をかすめる。それに追い討ちをかけるように第二報が入った。

「6名未だ下山せず、それを残してバスは出発した」とのこと。雨は次第に激しく、雷鳴はとどまるところを知らず、ついに落雷のため電話は不通となり、現地との連絡は全く途絶えてしまった。

そして、今まで全く経験した事のない集中豪雨と鉄砲水に見舞われたのだった。

第二は、その鉄砲水について記してみたい。

降り始めて30分も経った頃だろうか。気が付いたら本部前の道路は、両側の草の生えている部分を残して一面の川になつていて。それがただの川ではない。火山灰を含んだドス黒い水が、巾10メートルはあるかと思われる道路を、膝までの深さで激流となってFサイトの方から南部ブロックの方へ落ちて行くのである。この濁流の中を、10団のテントに居た一人のスカウトを救出するため、鈴木(宗)井ノ口両氏と共に渡った時は、本当に生きた気持はなかった。

やがて雨も小降りとなり、登山隊の帰りを待ちわびる目に、バスのヘッドライ

トが小さく見えて来た時には、気が付いたら全身ビショ濡れであった。しかし、テントを流れ、帰えるに家なきスカウトのため、地元富士宮のスカウト関係者の努力で遅い夕食をとり、上井出小学校に一夜の夢をむすぶ事が出来たのは、本当に有難く思いました。

第三に、プログラムの面に於いても定期的な事が行なわれました。その最なるものが「野点」(のだて)

これは10団のリーダーが中心となつて行なわれた自由参加行事です。野点ですから茶室も躊躇(にじりぐち)も、勿ろん有りませんが、富士を眺めての野点はまた一段と趣があり、千利休とはいかなくとも、表千家か裏千家のお茶会かと見まちがうばかりでした。???

時間に追われがちな野営に於いて、いっぷくのお茶を味わい、「とにかく茶は佗(わび)がおもでござります」と、高漫斎行脚日記を思い出すひと時でした。

その他、平面測量、オリエンテーリング、アマチュア無線等々、多彩なプログラムに多ぜいのスカウトが参加し、楽しく有意義な3泊4日でした。

浜松地区もスカウトが増加し、加盟全団を収容出来る野营地がなくなりて参りました。そのため、合同と呼ぶ野営は今回が最後かも知れません。一沫の淋しさを感じるのは私一人ではないでしょう。いろいろな意味で印象に残る合同野営でした。

最後に、4日間に亘りご奉仕を戴きましたリーダー、団委員の方々、そしてスカウトの健康を気遣われて、遠路わざわざかけて下さいました柳本、長尾兩先生に心からお礼を申し上げます。

浜松地区無線技士養成講習会

8月28日～9月2日

於浜松市立青少年の家

過日行なわれました、地区内のスカウト及び指導者を対象に、電話級アマチュア無線技士養成講習会が、日本アマチュア連盟主催で、ボーイスカウト浜松地区アマチュア無線クラブ後援にて開催され、参加者55名にて、去る9月2日無事終了試験を終え閉講致しました。

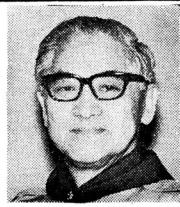
地区コミッショナー三輪悦爾さんを始めとするスカウト及びリーダーと一緒に猛勉強したかいあって、かなりの好成績をおさめる事が出来ました。

S 48. 9. 5

南部ブロック担当 副コミ
井ノ口泰三



敬弔 松方三郎 日本連盟総長



私達が敬愛するボーイスカウト日本連盟総長松方三郎先生は慈恵医大附属病院に入院加療中のところ9月15日逝去されました。朝霧での世界ジャンボリーの直後倒れられ、一頃は元気になられたのですが、遂に再発し悪化したものでした。74才でした。先生は登山家としても世界的に有名な方で特に日本山岳会エベレスト登山隊長としてヒマラヤへ行かれたことは、まだ記憶に新しいものとして残っています。元米軍の駐日大使ライシャワーさんの奥さんの春さんの叔父であり、明治の元勲松方正義氏の子息として松方コレクションの返還に情熱をかたむけ、遂に上野の国立美術館に寄贈された美術界の恩人でもあった。私達は心から先生の御冥福をお祈りしたいと思います。

「ローバー便り」

真夏も過ぎんとする9月4日夕刻、浜松地区ローバーの集いが法林寺で行われました。

多数の参加を希望しましたが、既に帰校している者もありまして出席者は下記の通りでした。

浜松地区コミッショナー	三輪悦爾
浜松15団R S隊長	原口芳彦
△△ R S隊	大谷 昇
△△△	鈴木謙二

参加者を待つ間、例によって色々と雑談に花が咲きました。
とりわけスカウティングの本質についてはゼネレーションの相違が幾分ある様です。それは当然の事であろうと思われます。

私自身もそう思っています。

何故ならばローバーは既に成人でありB-S或いはS-S當時と行動も思考も同一である筈もなく、又あってはならないと思われます。
然し乍ら我々が日本連盟の構成員である以上、B-Pの提唱する三原則だけは外れてはならないと思います。
では何故に三原則を離れてはならないのか?どうして、それが至上のものであるのか?大いに疑いを持って考えるべきであろうと思います。
頭から天下り式に押付けるだけでは納得出来なかろうと思います。
その答はどこからも得られないでしょう。
自分自身思考し行動し肌で体得する以外には地区コミも県コミも日本連盟のお偉ら方も教えてはくれません。

ロータリー・ライオンズ両クラブより無線機贈呈される

かねてより準備をしていました浜松地区アマチュア無線クラブに、郵政省東海電波監理局より4月11日付で免許が下りました。呼出符号は、J A 2 Z S FとZ S Hの2局です。すでに地区で購入していただいた移動用短波無線機に加え、このたび、ロータリークラブ及びライオンズクラブよりそれぞれ超短波の無線機を贈呈されました。ロータリーからは固定局及び移動局両用に使用でき、かつ装備も同機種では世界でも最新式と云われている機械であります。一方ライオンズよりの機種はロータリーカラブよりの機械の子機として連絡設定が出来る小型機でこれも最新型機を2台いただきました。クラブを設立して間もない私達にかくも立派な装置を御心配していただいた各クラブの諸氏に紙面をかりて厚く御礼申し上げると共に、今後共一層あらゆる面に活躍してゆきたいと思います。
(ハムクラブ担当 井ノ口)

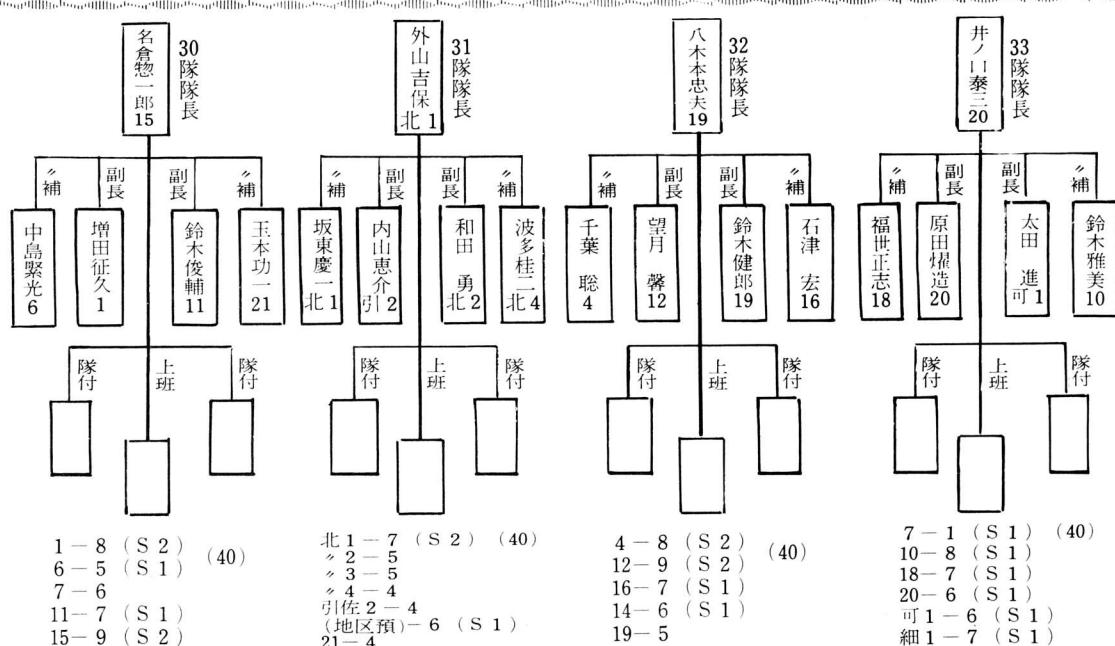
浜松第15団R S隊長 原口 芳彦

そして当日の議事は下記の通りでした。

- 地区ローバー隊員の名簿作製
(下宿先を含む現住所記入の事)
- 未登録者に隊員登録を勧誘する
- 自己紹介を書いて頂く(顔写真入り)
- 月例地区集会の開催
(浜松、東京、大阪等々の地区で)
- 各地区的責任者を選定する
- 日本国内各ローバー隊と活動状況を交換する
- 冬季野営の計画
- 浜松在住者による定期集会
- 次回は十月上旬に集会の予定
- 年末のシニア集会に合流参加しては如何

第六回日本ジャンボリー隊編成表(案)

(48.9.8日現在) 浜松地区派遣員一六〇名



アメリカ派遣に参加して

浜松第20回少年隊 塩谷 勲

私は第8回アメリカキャンボリー日本派遣団西隊の一員として7月29日から30日間のアメリカ派遣に参加しました。私たちは、アメリカ合衆国の大都市を観光しながら、スポーツのアラガット公園でのアメリカキャンボリー、ニューメキシコ州のフィルモントの野営に参加しデンバー・ロスアンゼルスの二個所でアメリカ人の家庭に入りアメリカの生活を味わいました。そうして8月29日、多くのスケジュールを消化して一生の思い出となるアメリカの旅を終え無事羽田に到着しました。

みなさん伝えたい事は沢山ありますが全部書き表わすことは不可能ですのでアメリカ連盟の指導者訓練及びエクスプローラー訓練基地として有名なフィルモント野営場について特に書いてみましょう。

8月13日、私たちはデンバーの分宿プログラムを終え午後四時にフィルモントに到着しました。そして各班ごとにエクスプローラーがつき用意されたテントに入りました。それからエクスプローラーが本部、トレーディングポスト・食堂等を案内してくれたり、食事の時間は朝6時、昼12時、夜18時で、その前に自分がテントまで迎かに行くなどと説明をしてくれました。その後、夕食まで自由時間を与えられ、トレーディングポストで買い物をしたり、テントの中で疲れいやしていました。

そして時間になると、エクスプローラーが迎えて、一緒に食堂に向かい食事をしました。この食堂はセルフサービスで食器類は各自でとり、コックから料理、ミルクを受けとり、飲み物はジュース、コーヒー、紅茶等で各自、自由に選ぶ事ができます。食べ終わると各自で指定された所に始末するという具合で殆んど使い捨てでした。皆さんは、もつたないと考えるかも知れませんが、キャンボリーの事を考えるとまだ、ここフィルモントの方がましなくらいです。日本でのキャンプでは、ちょっとと考えられない事ですが、事実です。

こうして食事を終え、二時間後に、見学しました。このときは珍らしく火を使っていました。皆さんはどうして珍らしいんだと疑問を持つかもしれませんので説明しましょう。私はキャンボリー期間中、ずいぶんとアメリカ隊のキャンプファイヤーに招待され数回行きましたが、その中で火を使ったものを見る事はできませんでした。全部が全部懐中電燈を使ったものでした。

た。もちろんそのようなライトを使ったものにはそれなりの味があり、良いものには違いはありませんでしたが、日ごろ火を使ったキャンプファイヤーに慣れているせいか、こちらの方がなんとなく好感を持つことができました。

ところで内容はというと、歌を歌ったり、寸劇をしたり、ある人がB-Pの話をしたりしました。ほとんど意味もわからず、もうどうでもよかったです、あくびの連続、その上急に冷え込んで来て参ってしまいました。

そうしてキャンプファイヤーも終り、テントに入ってシュラフにもぐり込んだわけなんですが、それでも午後12時近くになってしまいました。

8月14日、五時半ごろ急に外がさわがしくなり目がさめました。そしてエクスプローラーと朝食をとり、その後、東西合同の朝礼を行ないました。それが終って九時から、フィリップ氏の館や、シートンの博物館を見学し、午後はロッククライミングとしゃれこみました。ロッククライミングは初めてで、皆さんから見ればずいぶん格好だったろうけれども自分なりに一生懸命やり、スリルがあつて大変おもしろかったです。

こうしてきょうのプログラムが終わり夜は班会議が終わった後、各班長・次長が自主的に集まり、リーダーを除いたグリンバー会議が開かれました。そして知らず知らずのうちに西隊のスカウト全員がその会議を行なっているテントのまわりに集まり、リーダーや東隊に対する不満などいろいろな意見をぶつけ合い、その上で、これから旅行を楽しくするために、各リーダー、班長、次長等に対する態度、他班との間のつき合いの仕方とかいろいろとスカウト同士で決めあいました。私はここに自治的な精神をみたような気がして、大変嬉しかったし、改ためて西隊のスカウト全員を見直しました。そして私たちは、これからもこのような会議の場ができる限り持とうと約束して11時シュラフに入りました。

8月15日、きょうは五時半ごろ目がさめました。十人余りの人たちはラジオ体操をしたりして、なかなかはりきっていました。それに、いつもに比べてリーダーとのあいさつもしっかりでき、食事もエクスプローラーが来る前に、整列して来たらすぐ食堂に向かう事ができました。このようにいつもなく気持ちのよいしっかりとした行動をとることができ、これも昨日の会議のおかげと嬉しく思いま

す。これはリーダーにとっても同じのよう朝礼では團長、隊長共に機嫌が良く、朝の行動をほめてくださいました。ここへ来て初めてリーダーの嬉しそうな顔を見たような気がします。そして朝礼後軽くゲームをして、ゲートの所で記念写真をとりました。

その私たちはエクスプローラーの指示によって見学ツアーをして、午後は乗馬に挑戦しました。実際に馬をつれてこられて、馬って、こんなに大きかったかなと初めは恐る恐るさわっていたんだけど、だんだんと慣れて、恐いどころか、可愛くなっていました。そして一時間ほど予定のコースを馬に乗ってまわりました。途中、小川を飛び越した時などはスリル満点でした。

夕食後、私たちは初めて自分たちのキャンプファイヤーを持ちました。各班のいろいろな出し物にとてもわいたし、最後に、アメリカならではのインディアン踊りを披露してくれたりして、大変すばらしかったです。

キャンプファイヤー後、やはり昨日のように集会を設けて、明日の予定などの確認をした上で、各班に別れました。私たちの班は今まで世話になったマークというエクスプローラーをテントに呼び、各自チーフリングとかバッヂとかいろいろと贈り物をしました。それから、いろいろと話をして別れた後、各自テントに入り個人装備を終えて寝ました。

8月16日、きょうはきのうよりも早く起き朝食をとって、7時前に荷物を持って集合し、朝礼後バスに乗ってフィルモントを出発しました。

このようにして、フィルモントでのキャンプが終わりました。ここでは多くのすばらしい経験をし、このアメリカ派遣をすばらしいものとする一つの契機となりました。しかし、ここでフィルモントのコースをまわる事が出来たならば、もっとすばらしかった事でしょう。私はいつか、またこの地を訪れて、本当の訓練を受けてみたいものです。

以上のように、ここではフィルモントの事だけについて書きましたが、私は他の都市でも様々な経験を積みました。そしてこの様々な体験によって、自分でも気付いていないところにみがきをかけられている事だと思います。

これからもスカウト活動にますます力を入れて次の機会には、リーダーとして海外派遣に参加したいと思っています。

第17期力プスカウトコース実修所に入所して

浜松第1団カブ隊

井ノ口 智子

8月4日雷の鳴る三島神社に集合し、雷雨の中で受付が始まり、雷雨の中で実修所より出された、さきやかなサンドウイッチとミルクで昼食をとりました。人々伍々集まる人達の何と立派に感じられた事でしょう。この人達と6日間一緒に生活するのかと思うと、なぜかしら一抹の不安に襲われ、このまま那須から帰りたい気持ちになりました。

組編成のあと所員の誘導により、どしゃぶりの中を重い荷物をかかえ、水たまりをとびこながらコース広場の白雲閣で荷物の点検を受けました。家を出る時長時間かけてつめこんだ荷物をたった5分間に点検し、つめ込む技は人伝て聞いてはいたけれど「テンヤワンヤ」でした。そして荷物はそのままにして、開所式へ。

童心門の前で所長からの約束を受けて童心門をくぐる入所生の顔はひきつって真剣そのものでした。私もその一人で、いつもの私に似ず異常に緊張していました。

前面に緑の芝生が目に入った時、「よしやったろ」と斗志が湧いてきました。

型通りの開所式が終り場内をかけ足で案内してもらいました。案内は副長の神宮司さんでした。やれやれと思う間もなく課業が続く。息をつく間もないこの日課に、一番苦しいはずのサイトの設営がやっと自分の体になれた気がして楽しいひと時に思われました。

私のテントは沖縄から来た極東地区コミ

ッショナーのメリー・キャッシー（32才で4人のお母さん）と兵庫の橋本さん（22才の保母さん）と3人でした。英語のわからない私が、この5泊6日の外人とテント生活が心配でしたが、キャッシーの明るい生活態度に、かたことまじりの会話で無事に生活する事が出来ました。またキャッシーのキャンプに対する眞面目な態度（DUTYをはつきり守る）に感心させられました。日本の女子リーダーが男子リーダーに依存すぎるスカウティングに大きな反省点を伺うことが出来たことも、この実修所へ来たかいがあったと思います。

私は3組に編入されました。5人の中で女性はただ一人。行動、課業、作業は男女の差別なくやらなければなりません。その一つ一つは今後のカブ教育にどこかで役立つ事でしょう。特に私の組の年令は5人合せて、202才の高令組で、これなら色々な事が学べると期待したのに入所時に感じた立派さはなんだん影をひそめ、私とそう変わらない野営の力がわかり自分なりに奉仕の中で知り得た知識が無駄でなかった事に自信をもつことができました。それと同時に静岡県連盟の組織の強さと、講習会や研修所がいかに高度なものであるかを再確認しました。お互いにどんぐりの背くらべの私達3組は、チームワークに力を入れたおかげで私の組は5泊6日の期間に4回のウッドバッヂ（優勝組に与えられる大型ビーズ）を獲得し、他の組からうらやましがられ

ました。私が最終日の組長の時にも獲得出来ました。隊長からウッドバッヂを首にかけてもらった時のあの重さは忘れられません。それは木の重さに加えて、バッヂを受けるまでの組長としての責任の重さ、はたまた、これからスカウティングへの重責を強く感じました。

入所時には雨だった天候も3日目からは夏型の晴れあがった天候に変わり、那須ならではの高原の快適な生活が出来ました。これが研修の過程で大きく影響し獲物をとらえるのに役立った感じがします。

この度のWB実修所への入所には、所長はじめ所員の人格に触れる事を望み、スカウティングの真意を理解することを願って入所しました。又皆さんの講義が大変歓迎され、必要以外のことは話さない話術に感心させられました。そして初期の目的も達せられた気がします。これからは、隊に因に、地区に県連にと従来以上の奉仕に努め、よい社会人の育成のために微力ではございますが、自己の力を棒げていきたいと思います。



アメリカジャンボリー

浜松第15団SS隊 青島 茂

熱狂的にやる。心がかよう一瞬である。

8月3日、待望のキャンプファイヤーがあったが、それが始まった瞬間ズッコケタ。会場内が乾燥していることもあるがガス燈がキャンプファイヤーの中心だからだ。隊長の話しが始まった時僕の腰にゴツとまにか当たった。よく見ると足が伸びて来ている。彼らがあお向きになって寝ているからだ。ビックリした、日本のスカウトを見習ってもらいたいものだ。

8月5日、宗教礼拝を行った。あまり人数がいなかったが、大半は日系人のようだった。僧侶が英語で経文を読む。一見変った雰囲気であるが皆んな真面目である。不断宗教に無関心な僕でもこのときばかりは神妙で日系人たちの宗教熱心に恥ずかしい気持ちであった。

8月7日、ジャンボリーもいよいよクライマックスをむかえ、閉会式である。

女の子がスカウトに混って入っている

日本では見られない光景である。会場全体赤一色である（アメリカスカウトは赤ベレーに赤ジャケットを使用のため）

1週間に渡るアメリカジャンボリーが終った。心に残ることでいっぱいだ。

彼らはバカなことをしているなとか、さすがはアメリカ人、などと思うときがあった。彼らのスカウティングを知り、彼らの良い点を取り入れ世界のスカウトとして育っていくための良い経験である。

日系人スカウトもアメリカスカウトに負けないようにと誇りを持ってがんばっていた。僕たちも日系人たちのためにも立派なスカウティングを行うことに心がけてきた。その結果はさだかではない。しかし、僕たちのスカウティングを見て日系人たちも満足してくれただろう。などと自分勝手なことを考えながらアメリカジャンボリー最後の星空につつまれて寝ている日米両スカウトを見つめていた。

アメリカ旅行記

浜松第15団 S S 隊 榎 田 裕 司

7月29日から8月28日まで、一ヶ月間アメリカキャンボリー参加のためアメリカへ行くことになった。

ほくたちの乗った飛行機は爆音をとろかして羽田を飛び立った。これから、アメリカへ行くと思うと気を引きしめなはれはと思った。



アメリカ大陸の最初の地であるアンカレッジを経由してシアトルについた。ここはほくたちがアメリカに慣れるにちょうどよい町であった。ニューヨークのようにごみごみしていくなくて、北陸あたりの町を思い出させるような静かな町であった。スカウトの中にも一番良かったのはアトルだという意見が大半を占めた。

キャンボリーが終わって、ほくたちはアトルでトレイク市へ行った。塩湖のそばにあって、海岸の町のような気がした。ここで一泊して、デンバーへ向かった。

デンバーは、ほくたちが最初に家庭分

宿することになっているところだ。ことはが通じるだろうか。家族と親しくなるだろうか。などと不安を抱いてホストファミリーの家へ行った。しかし、いっぺんに不安が消えるような暖かい歓迎を受けた。そして家族とも親しくなり、久しぶりに家庭の味を味わった。楽しく4日間を過ごして、フィルモントへ出発した。ここで乗馬などをした。

久しぶりのキャンプ生活を終えてシカゴへ行った。この辺から町の雰囲気が今までと違うことに気がついた。シアトルのように落ち着いていなくて、何かあわただしいような気がした。町の造りが大阪に似ていると、あるスカウトがいった。でも黒人が多いため、大都市のためがあまりいい感じはしなかった。

ナイアガラの滝を見て、ニューヨークへ行った。今までのアメリカの都市とは全然違う雰囲気だ。町もそんなにきれいではない。それにはなぜかほくたちを見る目がちがう。異国人を見る目であった。犯罪が多いため、夜の外出は禁止された。はやくこんな町から出たいというスカウトもでてきたほどであった。

アメリカの首都ワシントンに一泊した。ここも黒人が多い町である。ほくたちは、異なる人種が同じ町で同じくらいの数が見られるというのにはたいへん奇妙で

あった。

サンフランシスコで一泊して、最後の訪問地であるロサンゼルスへ向かった。ここでもまた家庭分宿があることになっていた。デンバーでは二世の家へ泊ましたが、ここではアメリカ人の家へ泊まったスカウトも多かった。やはりロサンゼルスへくるとデズニーランドへいくのが定石らしい。もちろんぼくも行った。

ようやく、アメリカでの生活に慣れはじめたところで、アメリカを離れなければならなかったのはとても残念であった。でも日本が恋しいためか、別に悲しいとは思わなかった。今後またアメリカへ行くチャンスがあればぜひ行きたい。



地区合同野営に参加して

浜松第16団 村 田 真 二

この地区合同野営で経験したことは、なれども、だいたい等しいため、この文章は状況を省き感想中心とした紀行文とする。

この野営で得たものは何であろうか。野営の経験の重ねにより、さらに新しいわざを得た。それだけではない。もっと重要な経験の上に自分の知恵を組み合せ、野営生活の向上をはかるということを会得した。今までに数回の野営に参加していくながら今更になって、そんな重要なことがわかったかというと、今まででは自分より年上の者が絶えずおり、自分はその命令をきくというように束縛されていた。そのため生活の中で知恵をいかす余地がなかった。しかし、最年長になってしまった現在、考える生活を得たのである。

3日目の夜、集中豪雨のため、ついに野営地を出て、小学校に避難した。富士登山から帰着した直後のことでテントサイドの様子を見ないまま、隊員たちの決断により決定された。野営地を離れたことがとてもくやしかった。雨が降れば、テントサイドに水を入れないよう工夫する。それがボイスカウトであり訓練ではな

いであろうか。また、その苦難を乗り越えることによって豪雨時の対策など新たな知識を身につければいい。しかし後にその時の状況などを聞いてみると、水が腰までおしよせたということで、やはり隊員たちの決定は正しかった、と思う。だが、せめてテントサイドを見に行きたいのが真実であった。

富士登山は、足の痛みや寒さを感じた他、別段、苦心したこととはなかった。しかし富士山を見てひじょうに不審、かつ不満に思ったことがある。それは魔物の魔棄である。特にカンジヌースのあきかんは視野の中で見えない時はなかった。また五合目まで通じる道路付近の森林は新たにできたばかりの道路というのに排気ガスにより、ひどく荒れてしまっている。このような、不所存な人間たちにより荒廃、破かいされていく富士山が痛々しく感じる。

この合同野営を通して、かなりの野営技術が向上した。これから先、年長、ニアと続けるつもりである。

そして活動に積極的に参加し各方面に力をみがきたいと思う。

初めてのキャンプの思い出

浜松第19団 中 村 拓 雄

初めてのキャンプは富塚で行なった。キャンプの前の日は、明日がキャンプに行く日だと思うと近い所なのにむねがワクワクした。

上級の人に「中村、水くみに行ってこい」などと命令されて水くみに行ったりたき木を拾いに行ったりした。

バケツ一ぱい水をくんできてもちょっと水を使うときたなくなってしまう。

キャンプが終るまでに何回水くみに行なったかわからないくらいだ。

テントの中は思っていたより、いごこちがわるかった。木のきりかぶが有ったりして下が、ごつごつしていたりテントの中は独特のにおいがするからだ。

それもなれてしまえば何とも感じないから不思議だ。

ごはんは新めしだったりカレー汁みたいになったのにとてもおいしかった。

カレーの時など、ふくじんづけがつくがすぐになくなってしまう。

ほくたちの班は御飯を作るのが一番遅かったので今度のキャンプの時には一番になりたいと思った。

みんなと一緒に御飯を食べながらいろいろな話をするので、とても楽しかった。

天竜佐久浜北第1団4団合同野営

浜北第1団 国井俊二

8月17、18、19日と、3日間にわたって天竜佐久野営場で、浜北第1団、4団の合同野営が決行された。

ぼくのキャンプ生活は家を出た時から始まっていた。電車で小松に向かい、小松薬局で、家から苦労して背負って来た重いリュックをおろした。その後、小松駅から下り電車に乗り、西鹿島から14:01の国鉄バスで相津に着いた。心配して注意していた、はき気がなかったので良かった。

野営地に着くと、すぐにテント張りをした。ぼく達は野営が初めてなので杉山さんに手伝ってもらった。なかなかうまくはいかなかつたが、一応の事は完成した。それと同時にフライもできた。後、必要な立ちかまどなどを作った。作り方は全部杉山さんに教えてもらった。

設営が終わると、すぐ夕食の用意をした。こんだてはカレーだった。自分達が苦労して作った食事だったので、とてもおいしかった。

ナイトゲームには、目的の城まで行くとあめがもらえた。一人一人手をしっかりとぎりあって険しい山道を、赤ランプをたよりに登った。とても面白くてスリルがあった。

2日目の朝、起きるとすぐに朝食の用意をした。杉の間から、さしこむ日光で

キャンプファイヤーでの交際は、ぼくの心に一生残るだろう。そしてキャンプファイヤーに参加した友達の顔も、わすれないだろう。こう思った時、ぼくは、このキャンプファイヤーの火は、ぼくらの友情と心のあたたかさの火だと心の中でさけんだ。

3日目の朝、キャンプ生活最後の朝だが、あいにく朝方から雨がふっていたので雨の中の食事をとった。山の天気はほんとうに変りやすく、食事が終わると、木と木の間から、夏の日ざしが入ってきた。

間もなくテントの中の整理をした。むしろとグランドシートをほどすと、水泳に出かけた。今度は水がきれいで深い所もある川だったので、泳ぐことが出来た。みんな、はしゃぎ回って遊んだ。とてもおもしろかった。

帰ると、すぐに昼食の用意をした。つかれていたので、ちょうどよかった。とてもおいしかった。と言うことで、このキャンプ最後の食事が終った。

食事の後、すぐに、てつ営がはじまつた。せっかく作った立ちかまどなどを分解するのは、少しいやな気持ちになった。それに3日間、世話になつたテントも分解してしまつた。全部かたづけると、すぐに相津停留所に向かった。しかし、ただ帰るのではなく途中にあるほそ道路は何mあるかという問題で、歩いて行つた。ぼくは約950mになったが、正確に

朝つゆにぬれた縁が、とてもあざやかで気持ちの良い朝だった。

朝食がすむと、朝のつどいをモーニングゲームをはじめて行なつた。モーニングゲームで、ハットするゲームは、ぼく達の、わし班が優勝したので、少し感げきだった。

モーニングゲームの後は、せつえいの時間だった。ぼくの班では、道具置場を作つた。全部、自然を利用して作つたものなので、いい勉強になつたと思う。

せつ営が終わると、集合がかけられ、当番班の交代をした。兄さん達が、やるのを見ていると、大きくなつてからのことを考えて、自分もやるんだなと思い、胸がドキドキして真けんになる。

解散すると、すぐに昼食の用意をした。こんだては、そうめんだったが、めんを入れる時、火が強かったために、そうめんがこげてしまった。しかし、不幸中の幸いでこげたのは少しだつたので、あまりまずいと言うことはなしに食べてしまった。

はらごしらえをすると、水泳というか水あびというか、とにかく川にいちおう泳ぎに行った。登山ということもはじめて山道を登つたりおりたりして行った。流れが速くて泳げはしないが、その流れに乗つてぶかぶかういていると、自然の

は1,000mあるそうだ。そういうことをしながら無事故で家に着くことができた。

しかし、このまま、ただ生活するのではキャンプで学んだ自然の利用などの勉強が何のためになつたか、わからなくなつてしまつた。そのために、これから的生活の中に、この自然利用と言うことや3日間生活してわかつた。自然のしたみやすさが入りこむことができたら、どんなすばらしい生活になるだろうと思った。このことをするには自然を大切にするということが関係する。だから自然保護も大きい勉強だと思った。

ぼくたちは、今まで自然の大切さと、ありがたさを知らなかつたので、これから、この事を中心に生活することを努力しよう。

合同キャンプに参加して

浜北第1団 加藤俊宏

8月17日から3日間、天竜市の佐久野営場で、ぼくにとって初めての野営キャンプを行つた。何しろ初めてなのでテントのはり方から立ちかまどの作り方まで全然わからなかつた。杉山さんに教えてもらひながら一生懸命設営をした。

ぼく達の班長は、最初のうち何となくむやみな命令の仕方だった。でも本当は

力で流れていくので、とてもおもしろかった。帰りには、班善行をしながら帰つて行つた。途中に、宮原君のぞうりがなくなつたので、班をぬけ出してしまつた。隊長に大目玉というほどではないが、注意された。ぼくは、班員として、すまないなと思って、少しガックリきた。

帰るとファンタとアンパンが出た。久しぶりに食べるの、とてもおいしかつた。自然の中でこんな食事をとると、とても感げきだつた。

その後、夕食の用意をした。皆んな汗水たれ、持つてきた、まきを使ったので、とてもおいしくたけたように思えた。事実、ほんとうにおいしかつた。ほかほかのごはんがつめたい体をあたためてくれるよう思えた。食事をしながら、キャンプファイヤーの事を話し合つた。

このキャンプも、クライマックスに入つてキャンプファイヤーをやつた。ぼくらの班は、歌では連めい歌、ゼスチャーは赤トンボ、劇は赤ずきんをやつた。他の班のおもしろさや、たのしさに笑がたえなかつた。ぼくは、このキャンプの中で、これが一番思い出に残つてゐる。キャンプファイヤーで自己しよう会をした。皆んなの名前は覚えられないが、4回の人達とますます仲が良くなつたようで眞の友達になれたようだつた。このキ

その命令は野営をする者にとって、やらなければいけない事だつた。ただ、キャンプのきびしさを知らないぼく達にとって、その命令がむやみに感じただけだつた。

夜は、ぼくの班の友達が皆んなしゃべつていてやかましかつた。でも初めてのテントでの就寝にしては良くねむれた。

朝は起床が早くてねむたかつたり、起きるとすぐ朝食の用意をしたり新米のぼく達にとって、なかなか大変だつた。

自分達だけで作った物を食べるののは初めてだったが、それにしても案外おいしく食事が出来た。でもたまには、みそ汁に塩を入れたり、ご飯がハサハサにかたくなつたりして、とても食べられない事もあった。朝礼の時、外山隊長が「このキャンプでは従うことを学んでもらいます」と言われたのに対し、ぼくにそれが守ることが出来たかどうかを反省した。

このキャンプから自分でな事をしていくはいけない団体行動の大切さ、目上の人の命令は、絶対守らなければいけない。従うことの大切さ、その二つの事がとてもよい勉強になつた。また自然の木、土、石などを使って、いろんな事が出来るんだなと思った。

これから多くの行事に参加して、いろいろな事を学び立派なスカウトになりたいと思った。

天童佐久浜北第1団4団合同野営

浜北第1団 国井 俊二

8月17、18、19日と、3日にわたって天童佐久野営場で、浜北第1団、4団の合同野営が決行された。

ぼくのキャンプ生活は家を出た時から始まっていた。電車で小松に向かい、小松薬局で、家から苦労して背負って来た重いリュックをおろした。その後、小松駅から下り電車に乗り、西鹿島から14:01の国鉄バスで相津に着いた。心配して注意していた、はき気がなかったので良かった。

野営地に着くと、すぐにテント張りをした。ぼく達は野営が初めてなので杉山さんに手伝ってもらった。なかなかうまくはいかなかったが、一応の事は完成した。それと同時にフライもできた。後、必要な立ちかまどを作った。作り方は全部杉山さんに教えてもらった。

設営が終わると、すぐ夕食の用意をした。こんだてはカレーだった。自分達が苦労して作った食事だったので、とてもおいしかった。

ナイトゲームには、目的の城まで行くとあめがもらえた。一人一人手をしっかりとぎりあって険しい山道を、赤ランプをたよりに登った。とても面白くてスリルがあった。

2日目の朝、起きるとすぐに朝食の用意をした。杉の間から、さしこむ日光で

キャンプファイヤーでの交際は、ぼくの心に一生残るだろう。そしてキャンプファイヤーに参加した友達の顔も、わざれないだろう。こう思った時、ぼくは、このキャンプファイヤーの火は、ぼくらの友情と心のあたたかさの火だと心の中でさけんだ。

3日目の朝、キャンプ生活最後の朝だが、あいにく朝方から雨がふっていたので雨の中の食事をとった。山の天気はほんとうに変りやすく、食事が終わると、木と木の間から、夏の日差しが入ってきた。

間もなくテントの中の整理をした。むしろとグランドシートをほどすと、水泳に出かけた。今度は水がきれいで深い所もある川だったので、泳ぐことが出来た。みんな、はしゃぎ回って遊んだ。とてもおもしろかった。

帰ると、すぐに昼食の用意をした。つかれていたので、ちょうどよかった。とてもおいしかった。と言うことで、このキャンプ最後の食事が終った。

食事の後、すぐに、てつ営がはじまつた。せっかく作った立ちかまどなどを分解するのは、少しいやな気持ちになった。それに3日間、世話になつたテントも分解してしまつた。全部かたづけると、すぐに相津停留所に向かつた。しかし、ただ帰るのではなく途中にあるほそ道路は何mあるかという問題で、歩いて行つた。ぼくは約950mになったが、正確に

朝つゆにぬれた縁が、とてもあざやかで気持ちの良い朝だった。

朝食がすむと、朝のつどいをモーニングゲームをはじめて行なつた。モーニングゲームで、ハットするゲームは、ぼく達の、わし班が優勝したので、少し感げきだった。

モーニングゲームの後は、せつえいの時間だった。ぼくの班では、道具置場を作つた。全部、自然を利用して作ったものなので、いい勉強になつたと思う。

せつ営が終わると、集合がかけられ、当番班の交代をした。兄さん達が、やるのを見ていると、大きくなつてからのことを考えて、自分もやるんだなと思い、胸がドキドキして真けんになる。

解散すると、すぐに昼食の用意をした。こんだては、そうめんだったが、めんを入れる時、火が強かったために、そうめんがこげてしまった。しかし、不幸中の幸いでこげたのは少しだったので、あまりまずいと言うことはなしに食べてしまった。

はらごしらえをすると、水泳というか水あびというか、とにかく川にいちおう泳ぎを行つた。登山ということもはじめて山道を登つたりおりたりして行つた。流れが速くて泳げはしないが、その流れに乗つてぶかぶかういていると、自然の

は1,000mあるそうだ。そういうことをしながら無事故で家に着くことができた。

しかし、このまま、ただ生活するのではなくてはキャンプで学んだ自然の利用などの勉強が何のためになつたか、わからなくなつてしまつた。そのため、これから的生活の中に、この自然利用と言うことや3日間生活してわかつた。自然のしたしみやすさが入りこむことができたら、どんなすばらしい生活になるだろうと思った。このことをするには自然を大切にするということが関係する。だから自然保護も大きい勉強だと思った。

ぼくたちは、今まで自然の大切さと、ありがたきを知らなかつたので、これから、この事を中心に生活することを努力しよう。

合同キャンプに参加して

浜北第1団 加藤 俊宏

8月17日から3日間、天童市の佐久野営場で、ぼくにとって初めての野営キャンプを行つた。何しろ初めてなのでテントのはり方から立ちかまどの作り方まで全然わからなかつた。杉山さんに教えてもらいながら一生懸命設営をした。

ぼく達の班長は、最初のうち何となくむやみな命令の仕方だった。でも本当は

力で流れしていくので、とてもおもしろかった。帰りには、班善行をしながら帰つて行つた。途中に、宮原君のぞうりがなくなつたので、班をぬけ出てしまつた。隊長に大玉玉といつてはいけないが、注意された。ぼくは、班員として、すまないなと思って、少しガックリきた。

帰るとファンタとアンパンが出た。久しぶりに食べるの、とてもおいしかつた。自然の中でこんな食事をとると、とても感げきだつた。

その後、夕食の用意をした。皆んな汗水たれて、持つてきた、まきを使ったので、とてもおいしくなつた。ほかほかのごはんがつめたい体をあたためてくれるよう思つた。食事をしながら、キャンプファイヤーの事を話し合つた。

このキャンプも、クライマックスに入つてキャンプファイヤーをやつた。ぼくらの班は、歌では連めい歌、ゼスチャーは赤トンボ、劇は赤ずきんをやつた。他の班のおもしろさや、たのしさに笑いがたえなかつた。ぼくは、このキャンプの中で、これが一番思い出に残つてゐる。キャンプファイヤーで自己しよう会をした。皆んなの名前は覚えられないが、4団の人達とますます仲が良くなつたようで眞の友達になれたようだつた。このキ

その命令は野営をする者にとって、やらなければいけない事だつた。ただ、キャンプのきびしさを知らないぼく達にとって、その命令がむやみに感じただけだつた。

夜は、ぼくの班の友達が皆んなしゃべつていてやかましかつた。でも初めてのテントでの就寝にしては良くねむれた。

朝は起床が早くてねむたかつたり、起きるとすぐ朝食の用意をしたり新米のぼく達にとって、なかなか大変だつた。

自分達だけで作った物を食べるの初めだったが、それにしては案外おいしく食事が出来た。でもたまには、みそ汁に塩を入れたり、ご飯がバサバサにかたくなつたりして、とても食べられない事もあつた。朝礼の時、外山隊長が「このキャンプでは従うことを学んでもらいます」と言つたのに対し、ぼくにそれが守ることが出来たかどうかを反省した。

このキャンプから自分でな事をしていい事ではない團體行動の大切さ、目上の人の命令は、絶対守らなければいけない。従うことの大切さ、その二つの事がとてもよい勉強になつた。また自然の木、土、石などを使って、いろんな事が出来るんだなと思つた。

これから多くの行事に参加して、いろいろな事を学び立派なスカウトになりたいと思つた。

班長訓練 野営の反省

浜松第20団 複田 隆成

3月22日渋川。広大な青空のもとで班長訓練野営の開所式が開かれた。ぼくもこの中の一員として開所式に加わった。そして、式の最中、自分一人で、ちかいを立てた。①「友達を作る」②「リーダーにしほられるのではなく、自分から仕事をかい、いろいろ学び取る」の2つである。間もなく式も終り、我々20団は可美のスカウトと馬班を結成した。可美的スカウトは、すぐ仲よくできた。まず一つちかいを実行した。一つ目標が果せたせいか気がゆるんだのも一日目からだった。これはぼくだけなく皆んなもそうでないかと思う。

二日目の朝、点検のとき隊長は我々の気のゆるみを見事みやぶり「昨日からなんの進歩もない。君達はただのスカウトではないのだ。ほんとうにがっかりした」とズバリと言った。それを聞いて、まずぼくの頭にうかんだのは、コップエルのことである。本来なら昨日の晩、洗っておくべきなのに、いまだにそのまんまで米つぶがついている。これは班の責任である。「なんてこった初日から」と思った。しかし又こりずに2日目の晩も洗わぬでてしまった。「本当にしょうがないな、馬班のはばども」と自分でもはらが

キャンプのこと

浜北第1団 宮原 良和

17日朝、小松薬局駐車場にキャンプに参加する浜北1団の人たちが重たそうな荷物をもって集まつた。初めてのキャンプだったので、とても不安だった。そして電車で西鹿島まで行った。途中、駅から4団の人たちと一緒にになった。

その後バスにのって相津までいった。キャンプ場にむかって歩き始めた時、車が来た。あっと言う間にキャンプ場についた。車にのせてもらって楽だった。

すぐにテントをはつた。杉山さんに、いろいろ教えてもらつたり、てつだつてもらつたりした。立ちかまどをつくり、火をおこして、ご飯を作つた。けっこうおいしかつた。夜になつた。ゲームをやつた。そしてテントの中に入つてねた。

18日、起床で皆んな起きた。食事を作つたのが大変である。まきに火がつかないからだ。それでも何んとか食事を作つた。それから設営をおこなつた。設営の時間も過ぎて昼食を作つた。そうめんだった。

午後は水泳があつた。ちょっときたくなつたが、おもしろかった。帰りに、ぞうりのかたほうを落してしまつた。

夕食を作つた。これもおいしかつた。

夜には、キャンプファイヤーをやつた。あとで出た、おしるこが、おいしかつた。とても困つた事は、まきの事と水と班のまとまりだった。

たつた。

大したこともしない中に3・4日のハイクも終つた。班旗を見るとテープが5つヒラヒラしている。この野営中で5回のゲームに優勝した印である。そくせき班旗が他のどの班よりも多い5つのテープで一番引き立つて見えた。そして閉所式。この日もカラッと晴れたよい天気だった。いやに簡単に4日が過ぎた感じがした。

式の最中4日間の反省をした。反省すれば反省するほど4日間のどの日をとっても力一杯やつた日は一日もなかつたような気がした。やろうとしても実行しなかつたのだ。その原因は自分の意志の弱さにある。自分がこれほど意志が弱いとは思ひなかつたが、この野営で自分の意志の弱さがはつきりわかつた。だから、まるつきりおぼえずに帰るわけではない。自分は意志が弱いということを悟つた。この悪い自分の根性をたき直して新班長になろうと思う。幸い近日隊野営を控えているので、その時、力を出しきつてやる事を一つの目標にすることにする。



友情の輪 スカウト大会から

19日、朝ご飯を作つた。これもおいしかつた。

水泳を行つた。今度は水はきれいで、まあよいところだった。帰りがとてもだるかつた。

水くみは大変だった。

水泳のあとは一番たいへんな設営をやつた。ベグをはずして、テントをたたんだり立ちかまどをこわしたりした。せつかく作つたのに、こわすのは、もつたないと思ったが仕方がなかつた。

相津の駅まで歩いて帰らなければならないので、帰りは、とてもいやだった。

それでも何とか歩いてバスの所まで行つた。そしてバスに乗つて、電車に乗りかえ、小松駅でおりた。帰りは野末君に送つてもらった。車の中で、早く帰りたいと思つた。

いまキャンプで一番大切だと思った事は班はまとまらなければならないと言う事だ。

ぜひ、もう一度やりたい。とても勉強になつたキャンプだと思う。



初めての野営

浜北第1団 馬淵 新吾

8月17、18、19日、ボーイになって初めてのキャンプがあつた。しゃせいの経験はあったが本かく的なキャンプは、これが初めてです。まず出発のとき大きな荷物に悲めいをあげた。なにしろ後へひっくり返えりそうには、びっくりした。午後四時ごろになって目的地佐久へ着いた。現地は思ったより良いところでした。ぼくたちは川の近くにテントをはりました。ぼくたちは、まだしんまいなのでテントのはり方を知らないのでローバーの人たちに教えてもらった。

「ほう、テントってこういうふうに張るのか。ああいい勉強になったなあ」と思った。初めてテントにねると思うとむねがわくわくした。

でも中は暑くてたまらなかつた。それにちょうど、ぼくのねた所に石があつてなかなかねつかなかつた。はりきつてつくつたカレーは記念になるほど、まずかつた。それにトイレのきたないのには、まったくへいこうした。これからもこのようなキャンプがたくさんある。ぼくもそれにたくさん参加してりっぱなスカウトになりたい。

いま考えると、とてもいい勉強になりました。

キャンプ

浜北第1団 小和田 寛幸

キャンプ場についたとき、石がゴロゴロしているので、こんな所で出来るか心配でした。

食事の時、雨で木が、しめっていたので主に杉の葉をもやしました。

水も川まで、くみに行きました。川には、かにが、たくさんいました。

ねる時などは、一つのテントに六人もどの多人数なので、キューキューになってねて苦しかつたです。それに行が下にあり、いたかった。次の日に立ちかまどやトイレも作りました。

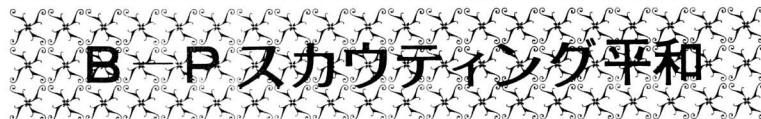
初めてなのでいろいろ先輩に教えてもらいました。また雨の水を利用するとも教えてもらいました。

山を登つて川に水泳に行くのは、とても、つかれました。

キャンプファイヤーは班ごとに寸劇や歌などをやり楽しかつた。最後におしるこを食べたので、おなかが一杯で、なかなかねむれなかつた。

短かい三日間だったけれど、新入隊員の、ぼくにとっては、とっても勉強になりました。





B-Pスカウティング平和

スカウトは、全てのものの友であり、他のスカウト達と兄弟であり、そのものの属する、国と階級、又は教義の如何を問わない。

これは、イギリスのスカウトの「おきて」の第4である。

このような、ヒューマニズムの大理想、とても実現出来そうもない人類最大の難問をB-Pはスカウティング発生後、僅かに30年目の1937年に、完全に達成した。

それは、こうした面では世界一の難問をかかえているインドに於て、第1回全インドジャンボリーで、明らかに実証されたのである。そこで、大英帝国はB-Pに、最高のメリット勲章を贈ったのである。

インドと同じような、人種や宗教の混成しているアメリカも

又、ヒューマニズムの大理想とスカウティングの功績を認め、ワットラー平和賞を贈呈したのである。

ノーベル平和賞に何回か候補にあがりながら、その受賞を待たずしてB-Pは逝去された。受賞された、されないを考えるのではなく、B-Pのスカウティングが、如何に入類の平和、世界の平和に寄与され、期待されているかを立証されているのである。

B-Pのスカウティングと平和、そしてその実行の強さ、それは、今日も、将来も、世界中にそれは続いている。この道以外にはほんとうの平和はないであろう。そしてその平和は家庭、グループ、隊、団、地域、国へと続いて、世界の平和へとつながるのである。

内田嘉一



舎營に参加して

8月18日、浜松10團カブ隊舎營の日だ。ぼくは午後になるのが、まちどうしかった。お昼ごはんを食べると、お父さんが工場から帰って来た。

ぼくは、すぐ3組の集合場所へ行った。もうみんな集っていて、ぼくは、おそらくなってすまなかったと思った。

午後一時、二台の車に乗って奥山に向った。約一時間かけて奥山方広寺に着いた。

後藤隊長と柴田副長が、むかえてくれた。ぼく達の組が一番だった。つづいてほかの組も次々にとう着した。

しばらく、けいだいで遊んでいるうちに三時になり研修所に入った。そして各組の部屋を決めてもらい、ぼくらの、へやに入った。

最初におじょうさんから研修所での注意をうけた。話が終ってから植物採集に出かけた。ぼくたちの所には、あまりない木の葉をたくさん見つけ持ち帰った。

山はとても暑かったのでみんな、あせびしょりになった。さっそくふろに三組と四組がさきに入ることになりました。Dチーフを先頭にみんな楽しそうに、ふろ場に行った。たいへん大きなふろで、ふろに入ったり、シャワーを浴びたり、たいへん良い気分になった。

六時ごろ夕食の準備が出来たから食堂に集まるように放送があった。食堂に行くと、もうみんな集っていた。

おじょうさんが、ひょうしげをたたきぼく達は食事五觀を大きな声で読んでから食べ始めた。ぼくはみんなと食事をするときは楽しく、いつもより、たくさん

食べれるので、おかわりをもらった。部屋に帰ってから組集会で、画用紙に葉をはり付けたり、葉のすじにカーボンをぬりつけて写し、みんなで、くふうしてロボットのヤクザが出来上りました。

それから隊集会で、その発表会をしました。みんな、うまく出来ていた。

隊集会が終ってから屋上に出てゲームなどを楽しみました。

9時15分に皆ないっしょに、ねました。なかなか、ねむれなかったのでみんなで話をしたり、起きたりしていたら柴田副長が三組は、やかましいといって、とまりに来ました。

朝は5時20分に起き顔を洗ってから、広い部屋に集り、おじょうさんの、お話を聞きました。朝のラジオ体そうをしてから食事をしました。

いよいよ楽しみにしていた冒険旅行に出発です。

研修所を出て、おぢぞうさまが、たくさん並んでいる所を通り、第一信の階段のところでみんなで相談をして78段あることにきめました。それから草の中を、かきわけて山に入っていきました。すると第三信が見つかった。

「ああ。第一信を、わすれてきた」とみんな、くやしがった。

正人君が「さっき、あったに」といったのでDチーフと正人君が、もどって見に行きました。しばらくすると「わからなかった」と言って、もどってきました。「しかたないなあ」と言って第三信の木の直けいを、はかって、どんどん上へ登って行きました。すると、トラがりの所

浜松第10團カブ隊 相曾利公

にきました。

皆んな一本づつ矢を、もらって投げたが一本も当たらなかった。

次に柴田副長がいてロープすべりをしました。次に木の葉で、かそうをして山を作りました。そして最後にぼくは、とくになつて、すごいスピードでロープづたいをして研修所に帰りました。

昼食のカレーを食べてから寝ねをし、さわがに取りました。

最後に研修所で表しよう式を行い一組の寺田君が優勝のメダルをもらつた。

三組は最下位となり、組長のぼくは、くやしくてたまらなかつたが、今年は三年と四年だけなので仕方なかつた。

来年は後藤隊長や柴田副長の言うことを良く聞き、みんなで、がんばり、優勝したいと思いました。

”弥栄 浜北第4団年少隊結成

かねてから設立準備中であった浜北第4団年少隊は今回、隊審査もパスして、昭和48年9月30日、北浜小学校に於いてめでたく発隊式が行われた。

当日は河合、市川両県議及び吉田浜北市長、県連側より稻森、井野、内田の各氏の来賓をお迎えし、友隊多数の祝福を受けた。

浜北市ライオンズ坪井会長より隊旗の贈呈などあったが、当日は合憲の雨のため市中パレードは中止し、式後、友隊のスカウトたちとゲームや有益なお話を聞いて散会した。

野営の思い出

浜北第1団 青島由武

8月17、18、19日と2泊3日で、佐久野営場にいって来た。ぼくが一番思い出になったのは、夜食のカレーライスだ。まわりは、しめついて、火をつけようとしても火がつかず、1時間ぐらいたら、湯が少しにえたってきた。そして、じゃがいも、たまねぎを入れた。火が消えそうになると、灯油をかけた。なので一回火がつくと、あまり消えなかつた。次はカレー粉を入れた。そして20分後できあがり、みんな一齊に「いただきまあーす」といってカレーライスを食べた。そうしたら、じゃがいも、たまねぎは、なまで、コリコリ、パリパリ、カレー粉は、かたまってドロンドロン、水は多すぎ、シャビシャビ、このとき、母親のありがたみを知った。

ぼくたちは、始めてボーイで野営をしたので、水くみ、まきひろいなど、いよいよ仕事ばかりやらされた。

消燈が10時、起床は6時、ぼくは、ふつ消燈が9時、起床は6時半なので、ねむたくてたまらなかった。この野営が10日近くもついたら、ぼくったらノックダウンだ。

次の日、水泳、ぼくは、水泳をやりにきたよりも、山登りしにきたと思う。水泳は、たったの10分近く。山登りは往復1時間ぐらいだ。帰りにみんな全員、ぜんこうをして帰った。そのとき、やっぱりボイスカウトだなあと思った。

せつえいがおわり、次は、てつえいだ。テントをたたみ、食器をしまい、回わりのごみをひろい、たいへんだった。組ごとに「佐久野営場3日間ありがとう、ヤーサー、ヤーサー、ヤーサー」大きい声でさけんだ。みんな隊長の回わりにあつまつた。隊長が、「佐久野営場、ありがとう」といって、みんなで「ヤーサー、ヤーサー、ヤーサー」と心の中にしみこんでゆくほど、大きい声だった。とても楽しい野営だった。

キャンプの思い出

浜北第1団 野末明弘

ぼくたちは8月17、18、19日の3日間にわたって天竜市佐久でのくんれん野営を行なった。

相津というところでバスをおり、そこからは、にもつをつんでいったトラックでキャンプ地までいった。行くまでは、雨がポツポツとふっていたが、キャンプ地へつくまでにはやんでいた。

いよいよテントはりだ。ぼくは、せんぜんやったことがなかった。でも、せんぱいの杉山さんに手伝ってもらい、とてもきれいにできた。それがすんでから、たちかまとなどを作りすぐ食事のしたくだった。こんだてはカレー、とてもおい

しかった。そのあとゲームをやった。これが17日。18日は、おもに水泳があった。水泳といつてもただの水あびだつたが、とてもたのしかった。帰るときはとても苦しかった。せっかくさっぱりしたのに、またあせでぐしょぐしょだった。キャンプ地へ帰ってきたときにくれたジュースとパンがとてもおいしかった。そして、この日でうれしかったことは、食事のしたくが一番はやくできたことだ。すごく大きな声で「イタダキマース」と言ったときは、とても気もちがよかった。

19日には、また水泳を行なった。18日のときほど遠くへは行かなかつた。でもとてもたのしかつた。岩の上からすべってウォーターシュートといって、みたりもぐりっこをした。

てつえいと相津へ行くまでがとてもたいへんだった。

この、くんれん野営で学校で、できないうなことができてよかったと思う。

紙ヒヨーキ

可美第1団 鈴木 利幸

ぼくは、カブスカウトで9月の15日と16日、青谷に、しゃえいにいきました。

つりをやつたり、かみヒヨーキをつくつたり、ついせきハイクをやつたりした。一ばん心にのこつたのは、かみヒヨーキをつくったことです。河原でボイスカウトのたい長がつくり方をおしえてくれました。ぼくは、はじめに、はがきまいと、わりばし一本でできるのかなあとおもいました。できたとしても、よくとばないのじゃないかと思いました。

作っているとき、むづかしいところがあつたけれど、できました。

どうたいのわりばしに、すいへいびよくとすいちょくびよくを、のりでくつけていたら、もうみんなはできて、とばしていたので、ぼくもいそいで作ってとばしたら、ぼくのは、みんなのより、かいちょうで、よくとびました。

しゃえいからかえって家でつくったのもよくとびました。とてもたのしかつたです。ぼくは、しゃえいが大好きです。

舎営に参加して

浜松第10団 寺田 祐也

8月18日、この日も暑い夏の太陽が照りつけていました。今日と明日、僕達カブスカウト浜松10団の舎営が、奥山の青少年研修所で行われるのです。1組は近くの神社に集合し3台の自家用車で出発しました。

ぼくは、奥山へ向う車の中で去年、青少年の家のオリンピックで1位になつて賞をもらったことを思い出しました。今年もうんとがんばり、去年と同じようにいい成績をあげたいと思いました。

研修所でのスケジュールは、きまりがきびしく、少しでもおくれると、放送で

注意されたり、食前に食事五観というものを読んだり、ざせんをやつたりで、ぼくにとつては、すきになれないきまりでした。

しかし、ぼくたち1組と4組のリボンの争いはおもしろかったです。ぼくたちがとつたのは、冒険旅行の第1信から第4信までの答えで本の直径の答えで青色のリボンを一まいもらい、ある橋の長さで黄色のリボンを一まいもらい、ほかに夜の隊集会で、いろいろなものをつくり、ゆうしゅうだったので青一まい、服そぞんけんで黄色一まい、でけつきよく黄色のリボン一まいの差でぼくらが最優秀組賞をとりました。

とても楽しい、舎営でした。来年の舎営では、2位との差を大きく広げて、1位をとつてほしいです。

しゃえい

浜松第10団 鈴木 宏昌

8月18日、19日は、おく山の青そう年の家でしゃえいがありました。午後から行って、はじめにたい長の話があつてから部屋をきめました。みんなうれしそうでした。しょく物さいしゅうをしました。山の中にたくさんのおじぞうさんがありました。そのおじぞうさんは、顔の形や、からだの部分がみなちがつていました。おこっている顔は、一つもありませんでした。その回りでめずらしい葉っぱをいろいろとつてへやにもどつてあつめてきた葉っぱでいろいろな形を作つてぼくたち2組がゆう賞しました。みんなでよろこびました。夕食の時は、やさいのごちそうだったけれど、ぼくは、もりをして、いっしょくけんめい食べました。おなかがすいていたので、とてもおいしかつたです。しようとうの時間になつたのでぼくたちは、しづかにねました。2組が一番早くねたのでたい長から賞をもらいました。朝になつたので大広間にに行ってざんをしました。その時に強くたたくおじぞうさんがあつたので、ぼくは、こわかったです。だけどぼくを、たたいたおじぞうさんはやさしい人でしたのであまりいたくなかったです。よかったです。次は、ぼうけんをしました。

プランコに乗つて、ロープでわたりました。とてもゆかいました。次にすぎの葉やしだの葉をからだじゅうにつけて、鳥やけものに見つからないように、へんそつしたのもおもしろかったです。ロープで山の一番上から下までおりて行きました。上からみるとぞつとしましたが、やってみたら、そんなにこわいものではありませんでした。楽しかつたです。午後は、さわがにをとりに行きました。ぼくたちは、ひっしになつてさがしましたが、まけてしまひました。帰りにキャンプ場を見て帰りました。いろいろなめずらしいことばかりで、よかったです。とても楽しいしゃえいでした。

各団のうごき

浜松第1団

7月25、26日 C S 獅ヶ原公園にて舍

營

27日 B S 班ハイク

8月2~5日 地区合同野営に参加

(朝霧高原)

25、26日 班野営 奥山・芝形にて
(父兄とカブを合流して)

(C S隊々行事)

・発團20周年を記念して、S S、B S、C Sの各隊及び父兄多数参加して、芝形野営場にて舍營をする。

(8月25日、26日)

・9月16日 発團20周年の式典を法
林寺にて行なう。**浜松第4団 (B S隊)**

7月29~8月1日 3泊4日

天竜市大渕 隊野営

8月18~20日 2泊3日

熊村 舎營

浜松第6団7月28~29日 (B S) 隊野営 於・住吉
ひのき坂野営場

8月2~5日 (B S) 地区合同野営参加

8月15~17日 (S S) ヨット講習会参加

8月28~9月2日 (S S) 地区ハム講習

会参加

9月22~24日 (B S) 隊野営 西鴨江
馬頭観音境内**浜松第7団 (C S)**

9月15~9月16日

1、1泊2日 交歓会

2、東京306回カブ隊 23名

3、9月15日 (1)新居浜弁天にて汐干狩

(2)カブ隊員宅に民宿

9月16日 三方原の合戦

8月11~13日

1、2泊3日 舎營

2、佐久間町・浦川キャンプ場

3、ジャングルと動物

(B S) キャンプ

8月7~10日 春野町・泉平

浜松第10団 (ボーイ隊)

7月28、29日 野営、入野、馬頭観音境

内

9月22、23日 野営、前浜 (篠原・坪井
新田)

(C S)

8月18、19日 舎營 引佐町奥山・奥山
青壮大研修所

7月29日 カブの父兄との夕食会

浜松第12団 (B S)

7月28、29日 芝形山反省野営

8月11、12日 住吉町青少年の家アカシ

ア野営

8月25~27日 濑尻舍營、秋葉山登山、

三尺坊舍營

9月15、16日 浜名湖一周サイクリング

三ヶ日南平公民館舍營

(C S)

8月7~9日 浜松12、細江1、茅野1、
飯田1 合同大会 於・細江町

25、26日 秋葉山登山、舍營

10月13、14日 飯田1回訪門舍營

11月3日 12回10周年式典

(S S)

8月2~5日 県アドベンチャー参加

(4名)

15~17日 地区ヨット訓練参加
(3名)**浜松第15団 (C S)**

7月 さつまいも植付

8月 2泊舍營 阿多古・長沢
(B S)

7月28、29日 1泊2日野営 芝形

8月12日 浜松温水プール 水泳

23~26日 3泊4日野営

阿多古・長沢

(S S)

7月28日 椎田裕司、青島茂、両隊員

アメリカジャンボリー派遣出
発**浜松第16団 (B S)**

7月21、22日 野営 奥山・芝形山

9月9日 サイクリング

浜松—東栄 120km

(S S)

8月2~5日 県連アドベンチャー

朝霧野外センター外

8月15~17日 ヨット講習会

三ヶ日町・大崎民宿

8月28~9月2日 ハム講習会

東部公民館、青少年の家

浜松第18団 (B S)

8月2~5日 合同野営 朝霧

6~11日 手旗モールス 浅間神社

19~20日 三ヶ日青年の家舍營

1級ハイク 3組

9月9日 オリエンティーリング

高天神コース

22~24日 班野営

30日 奉仕 (幼稚園運動会)

(シニア)

8月10~12日 寸又峠キャンプ

15~17日 京都觀察ハイク

ヨット講習

浜松第19団 (B S)

8月18~19日 舎營 横川

9月22~24日 ツ川宇連

◎横川舍營について 19回副長 小沢

8月18日、19日と横川舍營場で行
った。C S隊の参加者は33名、父兄の
方々も多数参加された。隊長が多忙ということで、私と鈴木副
長がかわって指揮をとったが、初めての
ことで、ひどく気苦労だった。大自然の
中で、子どもと過ごすこと自体すばらしい
ことであったが、いつも、これでいいか
の疑問に追いまわされた。C Sの教育システムのすばらしさが、
わかっているだけに、学習面で何を(理
解)身につけさせるか……とにかく2日
間の日程を無事終えたことにホットして
いる。自分の好きな植物、岩石、生き物等に
ついて少しでも身につけてくれたことを
祈って……。**浜松第20団 (C S)**

7月22~23日 岐阜県関1回との交歓会

(水泳大会)

8月24~26日 隊舍營 (横川)

9月9日 奉仕 (公園の草取)

(B S)

8月2~5日 地区合同野営参加

28~9月2日 ハム講習会参加

24~26日 隊野営 (横川)

(S S)

7月 アドベンチャーキャンプ準備

集会 (2回)

8月3~5日 アドベンチャーキャンプ

参加

28~9月2日 ハム講習会参加と奉
仕

17~19日 ヨット講習会参加

9月 室内集会 (夕食会)

浜松第21団 (B S)

7月28~29日 富士登山

8月12日 水泳訓練 中田島温水プール

B S、C S

25~26日 芝方・野営 (B S)

舍營 (C S)

9月15~16日 京丸をたずねて

(遠州七不思議)

細江第1団

7月29日 隊集会、野営用具点検

野営に対する諸準備

31日 東京調布第6回野営の援助

(4日迄)

8月6日 細江1回本日より2泊3日野

営

7日 富士宮第16回野営支援

(9日迄)

8日 長野県茅野カブ隊及び飯田カ

ブ隊舍營援助

17日 浜北第3回ボーイ隊野営支援

(18日迄)

(カブ隊)

8月7~9日 交歓舍營 (細江町内で)

参加回=長野県茅野1回、飯

田1回、浜松12回、細江1

回

24~25日 8月舍營 三ヶ日青年の

家 テーマ=ジエット機世界

めぐり

可美第1団 (B S)

9月15~16日 カブ、ボーイ合同野舍營

天竜市下阿多古青谷・青谷公

民館、神明宮神社

(内容) 魚つり、紙飛行機、營火、関所
ハイク (青谷不動の滝) 鐘乳洞、神明
宮、各ポイントでゲームを行なう。

(C S)

7月28~29日 水窪舍營

9月15~16日 B S 合同舍營

浜北第1団

7月25~27日 B S 隊夏季舍營第1回実

施 於・天竜市相津

8月17~19日 B S 隊夏季舍營第2回実

施 (浜北第4回と合同)

於・天竜市相津

25~26日 C S 隊夏季舍營実施 (浜

北第3回と合同)

於・浜北市平11 不動寺

10月14日 B S 隊サイクリング実施

浜北市北部及び天竜市方面

浜北第2団

8月7~8日 B S 竜山村 (秋葉ダム)

野営

C S 竜山第一小学校舍

舍營

17~18日 B S 細江B S キャンプ

場 野営

22日 B S 水泳訓練 (阿多古川)

9月23~24日 C S 浜北平11 不動寺

舍營

引佐第2団

7月19日 隊ルームにて野営についての

基本練習

28~29日 金指地内万城寺山にて野

営

8月10~12日 金指地内万城寺山にて野

営

26日 三ヶ日青年の家にて水泳練習

9月23日 金指小学校にて隊集会

始めての野営

浜松第19團・ハヤブサ班

早川 元雄

始めての野営で、たのしくてたまらない。

リュックをかついで、モーフを持った時は、重かった。これで、中村ガラスの裏まで、歩いて行けるかどうかわからぬのが、スタートした。スタートしたからは、目的地につくまで、がんばらなくてはならない。

ようやく目的地についた時には、つかれ切ってしまった。

みんなが、なにごとか集まっていたので、行って見た。

すると、ヘビが、カエルを、はき出そうとして、もがいているのを、みんなが見物しているのだった。

やがて、テントもはられ、しょつきをあらう、じゃんけんをした。

ぼくが、びりになったので、洗いに行った。

かってがわからないので、なかなかのうりつよくいかない。

せっかく洗った食器に、土をつけてしまったりして、あくせん苦とうで洗った。

食器洗がすむと、こんどは水くみだ。

つかれていたので、やめたかった。

水がおもくかんじられ、てが、しごれできたりして、はこんだ。

それでなんとか一日がくれてねた。

さすが、あれだけ重いめをして持ってきたモーフであると、なつたらよかつたのだが、空もうっすらと明るくなるころには、寒くて寒くてしかたがなかった。

おかげで二はくしたので、ねぶそくでふらふらしながら家へかえった。

楽しいとゆうより、ねむいキャンプだった。

ミ 予 告 ミ

- 昨年度より実施している「ソフトボール大会」は本年も12月より各ブロックで予選が始まり、来春早々には決勝戦の運びとなる。
- シニア・スカウト制度が変り、その試行隊の説明会が11月17・18日に静岡市・静岡県青少年センターにて開かれる。
- フィリッピンジャンボリー派遣者が決定した。指導者4名、スカウト14名。

B S スキー訓練

浜松地区合同スキー訓練が行われます。昨年度参加された方は要領がわかつて居られると思いますが、宿泊地の収容能力に応じて参加人員の調整をします。

1、とき 昭和49年2月9・10・11日
(半泊1泊2日)

2、ところ 白樺高原スキー場(長野県)
3、会費 1名 約10,000円位
(スカウト小供・大人とも同じ)

4、〆切 10月15日まで
尚各団にてスキー訓練を実施するにあたり、スキー連盟の指導員を同行すると

きに限り、ボーイスカウトスキー章のバッヂテストを受験出来ることに致しました。

～ う ご き ～

7月16日	スエーデン派遣 (鶴見、12團シニア) 県庁、市関係あいさつ	魚磯 (三輪、名倉、平野、井ノ口、杉山、山口、市川京)
18日	アメリカ派遣代表スカウト市関係あいさつ	看護学院生キャンプ指導
21日	スエーデン・ジャンボリー出発 (鶴見一哲 12團シニア)	芝形 内田時他
20~21日	事務長会議 県民会館 (牧野) 遠州病院看護学院生キャンプ指導 芝形 (内田他)	カブリーダー特技研究会
22日	カブリーダー特技研究会	法林寺
22日	ハム選抜テスト勉強会	法林寺
23日	アメリカ・ジャンボリー派遣 県庁あいさつ 鈴木 (10團シニア) 他4名	W・B研修所カブスカウト課
25日	地区野営行事委員会=合同野営について 法林寺	程静岡第7期 沼津少年自然の家 (宮沢、外山、柴田奉仕)
26日	地区雑庫設立打合 時世宅	30日 浜北第4団カブ隊結成式
27日	地区財政委員会 法林寺	北浜小学校
28日	アメリカ・ジャンボリー出発 (袴田、青島15團S S、鈴木 10團S S、鈴木18團S S、塩谷20團B S) 5名	地区組織拡張委 法林寺
29日	ハム選抜テスト (東部公民館)	「スカウト浜松」53号について
8月1日	合同野営最終打合 法林寺	3日 臨時全リーダー会議 法林寺
2~5日	地区合同野営 朝霧野外活動センター野営場 254名参加	地区大会について他
4~5日	県下シニア・アドベンチャー キャンプ 朝霧 36名参加	6日 地区コミ、事務長会議 県民会館 (三輪、牧野)
5~10日	カブコース実修所 2名受講 (那須)	7日 地区大会場下見 細江一帯 B S、C S準備委員
8日	カブ交歓会 (飯田・ちの、細江、12團各カブ) (気賀小)	7日 地区雑庫整理及び家移転青少年の家及び観音寺境内 (野営行事委員他)
10日	地区合同野営決算打合 法林寺	8日 地区大会準備委員会 法林寺 (カブ、ボーイ関係調整)
12日	ハム講習会 選抜テスト (東部公民館)	9日 地区委員会 法林寺 地区大会、日本ジャンボリー他
14日	11團10周年記念式典 (名店ビル6階)	12日 シニア・リーダー会 市川重雄事務所 地区大会および試行隊説明会について
15~17日	地区シニア洋上訓練 三ヶ日 大崎海岸坪井方 24名参加	15日 名与会議 法林寺応接室 (三役)
19日	スエーデン・ジャンボリーより帰国 (鶴見12團S S)	16日 C・S地区リーダー会議 法林寺
20日	地区合同野営反省会 (法林寺客殿)	18日 指導者養成委員会 法林寺 団委員研修会について
23日	浜北4団カブ説明会 (浜北美蘭園) (三輪、外山、小野田)	20~21日 東海ブロック会議 三重県津市 (三輪)
25~26日	アメリカ派遣 ヒルモンティの集い 伊東グランドホテル (内田、三輪他)	
28~30日	ハム講習会 市青少年の家 55名受講	
9月1日	ハム講習会およびテスト=市青少年の家	
3日	日本ジャンボリー見学団第1回説明会 法林寺	
4日	地区ローバー対策会議 法林寺 (三輪、原口15R隊長他RS代表2名)	
6日	コミ関係者会議 法林寺	
8~9日	コミ、事務長合同会議 静岡	

あとがき

- 10月2日組括委員会を開き編集会議をもったところ、各位の御協力により原稿も順調に集まります。
- ごらんのように今回は写真が集まらず、何か困苦しい感じとなってしまったことが残念。
- 次号は地区創立20周年記念号として充実したものにしたい。一層各位の協力を願う。(T・S生)

発 行 所

第53号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70-4 児童会館内
TEL 54-0178
編集発行責任者 杉山友男
昭和48年11月15日発行